

久留米市地場企業景況調査レポート(平成20年1月～3月期調査分)

<調査目的>

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

<調査対象>

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

<調査要領>

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

<DI値とは>

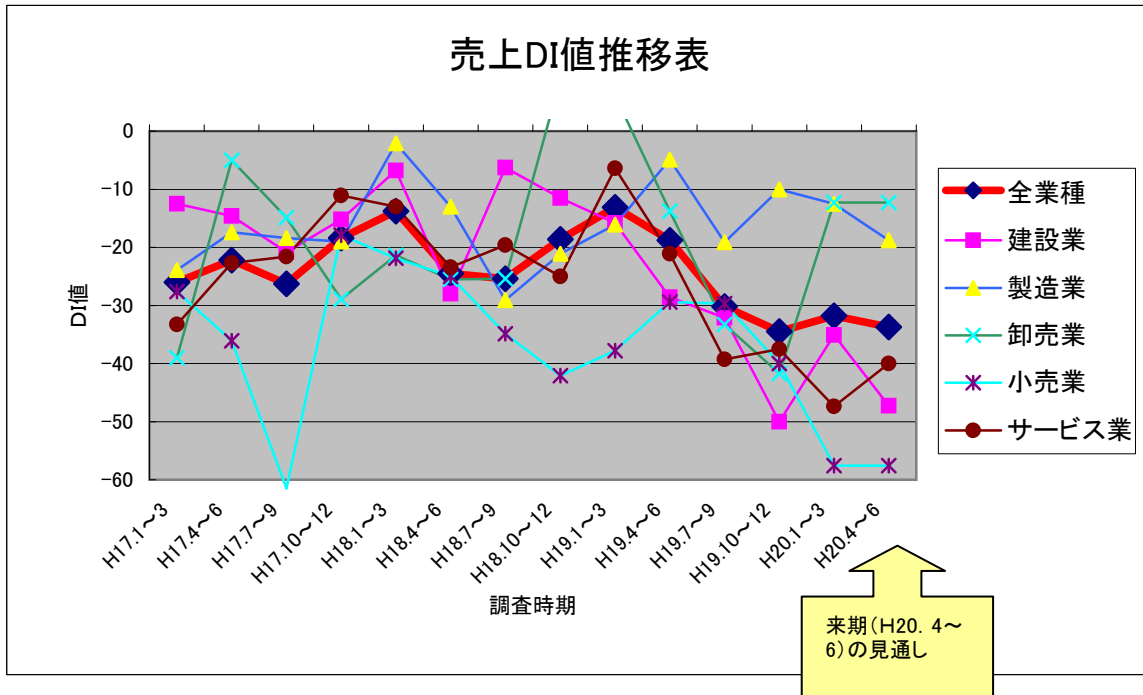
DI(ディーアイ。Diffusion Index: 景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

<平成20年1月～3月期調査分回収結果>

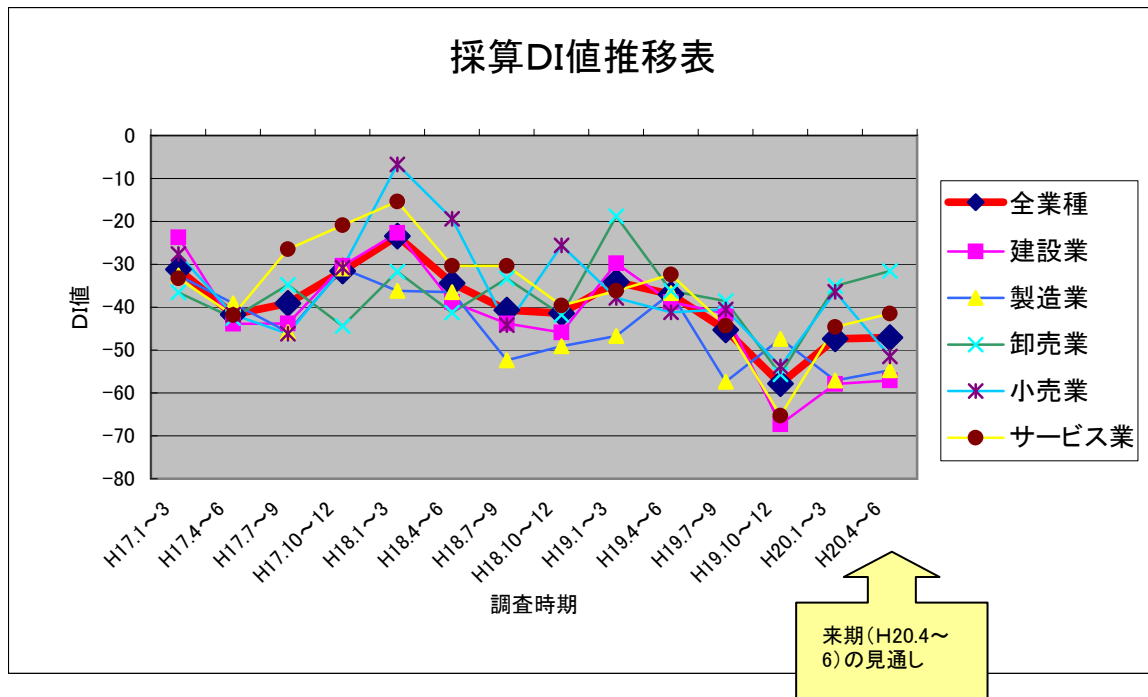
業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	268	44.7%
建設業	120	58	48.3%
製造業	120	64	53.3%
卸売業	120	56	46.7%
小売業	120	33	27.5%
サービス業	120	57	47.5%

売上DI値推移表



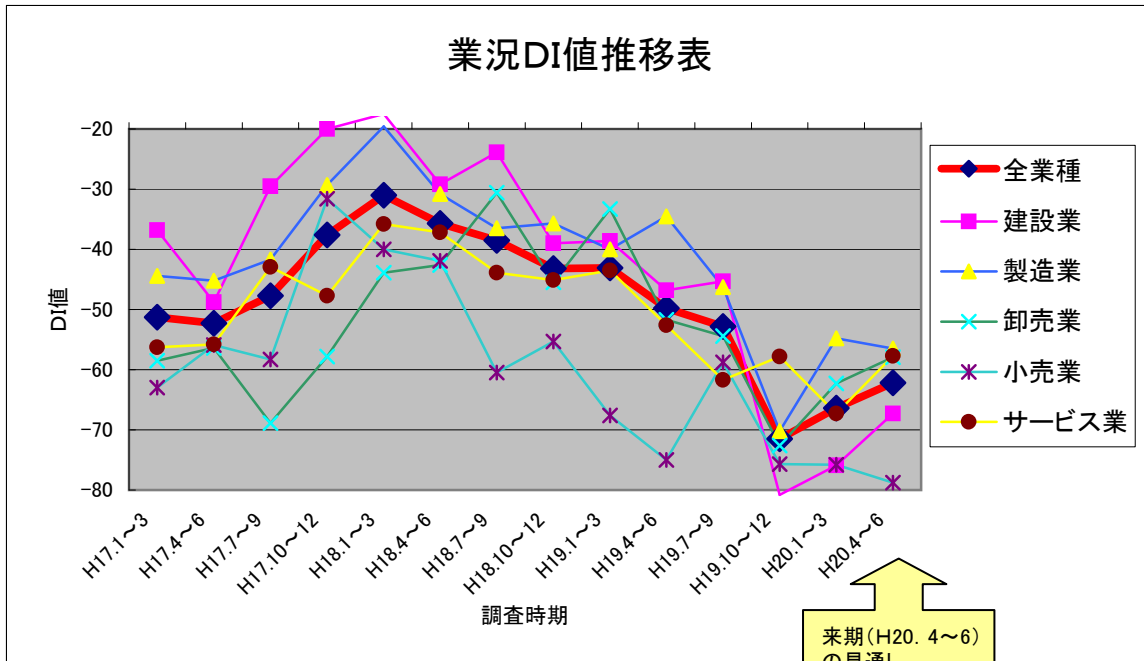
今期(H20. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で売上面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は55社(前期比4社減)、「減少した」と回答した企業は140社(前期比9者減)、「横ばいである」と答えた企業は72社(前期比19社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は一年ぶりに縮小して▲31. 8となり、前期比で2. 7ポイント好転した。業種別のDI値では、建設業▲35. 1(前期比14. 9P好転)、製造業▲12. 5(前期比2. 5P悪化)、卸売業▲12. 3(前期29. 4P好転)、小売業▲57. 6(前期比17. 6P悪化)、サービス業▲47. 4(前期比9. 9P悪化)となった。来期(H20. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲33.7と、1. 9ポイント悪化する見込み。

採算DI値推移表



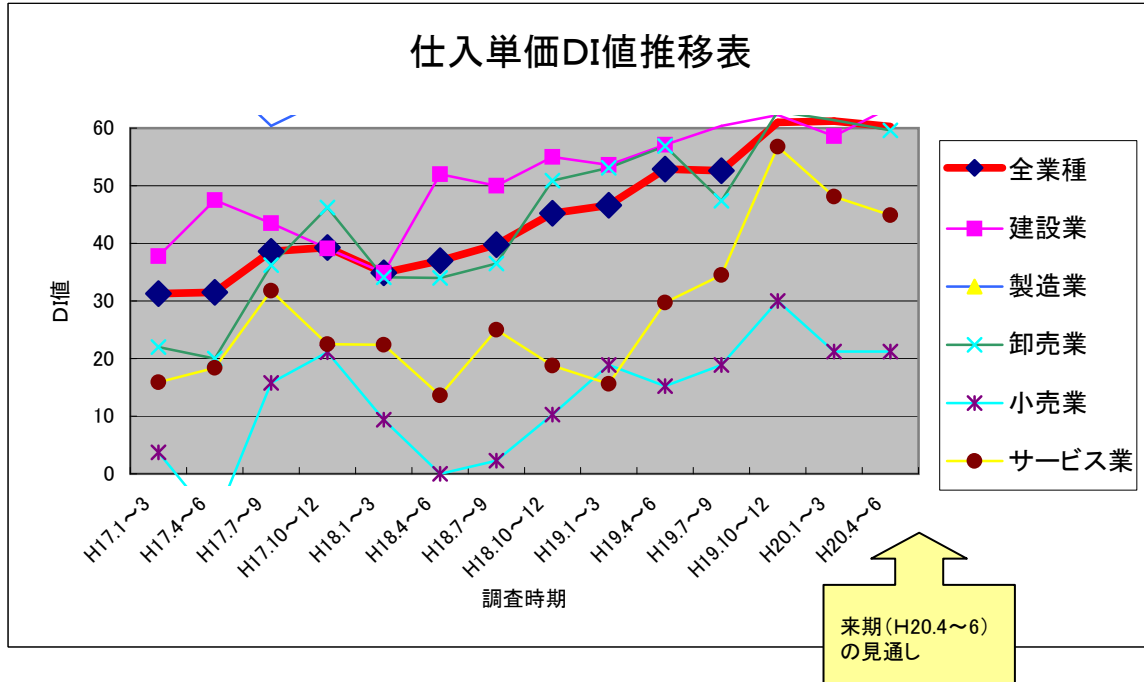
今期(H20. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で採算面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は30社(前期比11社増)、「悪化した」と回答した企業は116社(前期比52社減)、「横ばいである」と答えた企業は80社(前期比9社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は一年ぶりに縮小して▲47. 4となり、前期比で10. 4ポイント好転した。業種別のDI値では、建設業▲57. 9(前期比9. 4P好転)、製造業▲57. 1(前期比9. 7P悪化)、卸売業▲35. 1(前期比20. 6P好転)、小売業▲36. 4(前期比17. 4P好転)、サービス業▲44. 6(前期比20. 7P好転)となった。来期(H20. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲47. 1と、0. 3ポイント好転する見込み。

業況DI値推移表



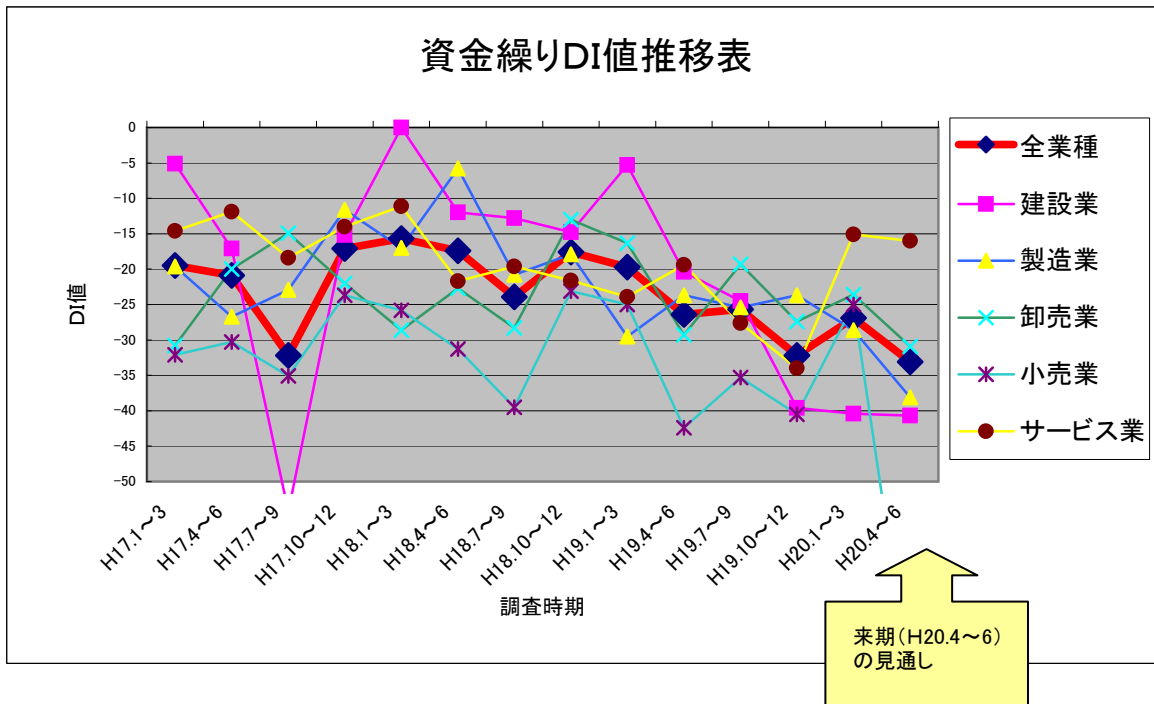
今期(H20. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で業況面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は7社(前期比1社減)、「悪化した」と回答した企業は183社(前期比6社減)、「横ばいである」と答えた企業は75社(前期比19社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は一年ぶりに縮小して▲66.4となり、前期比で5.1ポイント好転した。業種別のDI値では、建設業▲75.9(前期比4.9P好転)、製造業▲54.8(前期比15.4P好転)、卸売業▲63.2(前期比9.4P好転)、小売業▲75.8(前期比0.1P悪化)、サービス業▲60.3(前期比9.5P悪化)となった。来期(H20. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲62.2と、4.2ポイント好転する見込み。

仕入単価DI値推移表



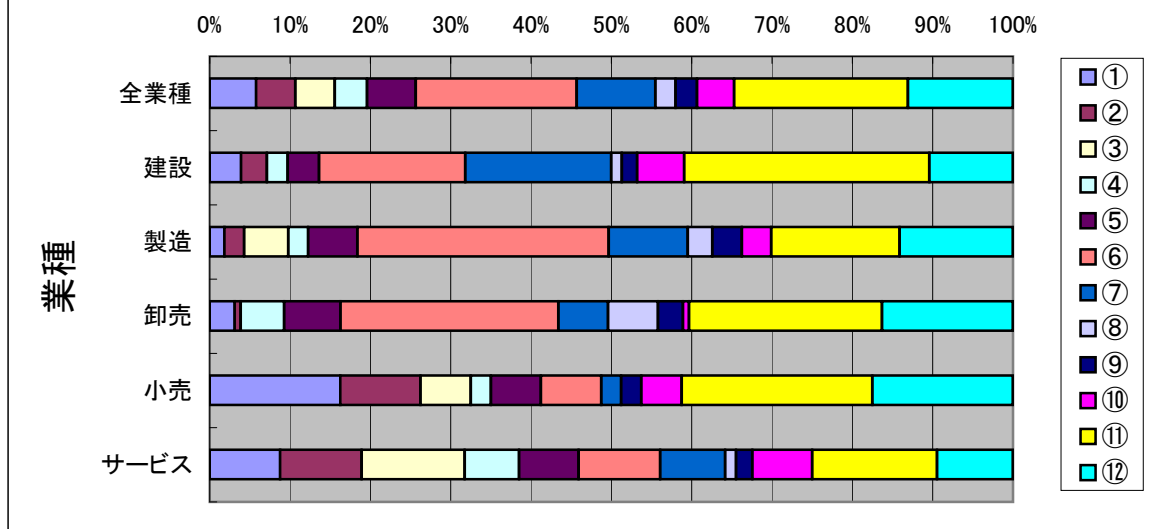
今期(H20. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で仕入単価面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は173社(前期比同)、「低下した」と回答した企業は12社(前期比3社減)、「横ばいである」と答えた企業は78社(前期比7社増)であった。DI値を見ると、2期連続で拡大して61.2となり、前期比で0.2ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業58.6(前期比3.7P減)、製造業95.2(前期比13.5P増)、卸売業61.4(前期比1.5P減)、小売業21.2(前期比8.8P減)、サービス業48.1(前期比8.7P減)となった。来期(H20. 4~6)の見通しでは全業種DI値は60.3と、0.9ポイント好転する見込み。

資金繰りDI値推移表



今期(H20. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で資金繰り面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は14社(前期比5社増)、「悪化した」と回答した企業は84社(前期比8社減)、「横ばいである」と答えた企業は162社(前期比5社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は2期ぶりに縮小して▲26.9となり、前期比で5.3ポイント好転した。業種別のDI値では、建設業▲40.4(前期比0.8P悪化)、製造業▲28.6(前期比4.9P悪化)、卸売業▲23.6(前期比3.8P好転)、小売業▲25.0(前期比15.5P好転)、サービス業▲15.1(前期比18.9P好転)となった。来期(H20. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲16.0と、10.9ポイント好転する見込み。

経営上の問題点(複数回答可)



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他
 今期(H20.1~3)の経営上の悩みとしては、「需要の停滞(21.6%)」「仕入単価の上昇(20.0%)」を指摘する声が多く寄せられている。

特に、建設業での「需要の停滞30.5%)」「請負単価の低下(18.2%)」、製造業の「原材料仕入単価の上昇(31.3%)」、卸売業の「仕入単価の上昇(27.1%)」、小売業の「大型店・中型店の進出による競争の激化(16.3%)」、サービス業の「利用者ニーズの変化への対応(12.9%)」に意見が集中した。

<事業所から寄せられたコメント>

- 「石油系の材料が高騰しており、利益が出にくい状況」(塗装工事業)
- 「熟練技術者の確保が難しい状況」(電気工事業)
- 「新築の着工数が大幅に減少しているため、売上が伸びない」(コンクリート工事業)
- 「前期に比べて受注額、引き合いともに増加した」(一般土木建築工事業)
- 「業者数が増加し、請負単価の下落につながっている」(建築測量業)
- 「仕入価格が急激に上昇し、製品価格の値上げが追いつかない」(生活用品製造業)
- 「引き合いが活発になり売上が増加した」(その他の食料品製造業)
- 「原材料の高騰と品不足により仕入がしづらい状況」(鑄造業)
- 「公共工事の減少に伴って受注生産が減少している」(ステンレス加工業)
- 「技術を持っていても取引先が減少してきているため、先行き不安」(ゴム製品製造業)
- 「大手メーカーと低価格競争をしなければならず、売上が減少」(建築材料卸売業)
- 「今後、原材料がどこまで高騰するのか不安」(通信機器卸売業)
- 「売上が減少しているため、税金の負担が大きい」(織物卸売業)
- 「今期と同様に来期も売上が伸びそうだ」(他に分類されない卸売業)
- 「経常利益の確保が困難な状況」(医療器具卸売業)
- 「後継者がいないため、今後の事業継続が不安」(金物小売業)
- 「前期に比べ客数は減少したが、売上は増加した」(その他の機械器具販売業)
- 「大型店の影響により、競争が激化している」(化粧品販売業)
- 「人件費が増加し、採算が悪化している」(医薬品小売業)
- 「仕入単価が上昇しても販売価格に転嫁できない」(クリーニング業)
- 「今期は売上が増加したが、今後の仕入単価の上昇が不安」(その他のサービス業)
- 「新規参入者が増加し、利用料金の低下が懸念される」(駐車場業)
- 「大型店の影響により、人の流れが変わってきている」(美容業)
- 「利用者ニーズの変化への対応が困難」(情報処理サービス業)